

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【谷田小学校】

学力向上
アクションマップ

①

今年度の目標と学力向上策

重点的に育成する
資質・能力

(1)複数の資料から目的に応じて、情報を選択・整理する力
(2)自らの思考プロセスを、根拠をもって他者に説明する力

↓

実施する学力向上策
【時期・頻度】

(1)正答を導き出して終わりにするのではなく、「なぜその答えになるのか」「どのような条件に着目したのか」をペアやグループで説明し合う場面を取り入れた授業の実施。【各単元の中で1回】
(2)各教科の調べ学習においてICT端末を積極的に活用し、複数のウェブサイトやデジタル資料から情報を探し出し、思考ツール(マッピング等)を用いて、児童が自らのベースで情報を整理・再構成する活動を意図的に設定した授業の実施。【各単元の中で1回】

⑤

年度末評価

学力向上策の
実施状況

評価(※)

↓

今年度の成果と
次年度の課題

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④

さいたま市学習状況調査結果の分析

特徴的な結果

↓

結果から考えられる
児童生徒の実態

③

中間評価

学力向上策の
実施状況

評価(※)

B

↓

学力向上策の
見直し

(1)正答を導き出して終わりにするのではなく、「なぜその答えになるのか」「どのような条件に着目したのか」をペアやグループでわかりやすく説明し合う場面を取り入れた授業の実施。【各単元の中で1回】
(2)各教科の調べ学習においてICT端末を積極的に活用し、複数のウェブサイトやデジタル資料から情報を探し出し、思考ツール(マッピング等)を用いて、児童が自らのベースで情報を整理・再構成する活動を意図的に設定した授業の実施。【各単元の中で1回】
(3)「パワーアップタイム」の際に、書くことに重点を置き、プリントやQubenaなどを活用していく。【週1回】
(4)各教科で自分の課題を明確化にし、取り組み後に自分で振り返りを書かせる等、日常的に書く活動を増やしていく。【毎時】

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②

全国学力・学習状況調査結果の分析

特徴的な結果

平均無回答率が低く、どんなことにもあきらめずに取り組む良好な結果が得られた。
・国語では、提示された複数の資料(図表や条件文)を関連づけて、目的に応じた文章を構成する記述問題で正答率が低い傾向がみられた。
・算数では、文章題から必要な条件を選び出して立式する過程の説明や、「データの活用」領域における理由付けを伴う記述問題に課題がみられた。

結果から考えられる
児童生徒の実態

・複数の情報を統合して解釈することに課題がみられる。
・条件に合わせて自分の考えを根拠とともに記述・説明することに、引き続き課題がみられる。

教育研究所